

一連載 地図のお話— No. 175



「記念物めぐり—茨城県版—」(第4回)

—国指定特別史跡「旧弘道館」と国指定史跡「大串貝塚」—

日本ウオーキング協会 専門講師 堀野 正勝

記念物巡りの第4回は、水戸市に所在する史跡を巡ります。水戸市には、国指定特別史跡の「旧弘道館」をはじめ数多くの史跡・名勝・天然記念物があります。

(国指定特別史跡「旧弘道館」) 昭和27(1952)年3月29日 指定



旧弘道館の正門と附塀(つげたりへい)

弘道館は、水戸藩第9代藩主徳川斉昭(裂公)が、改革を眼目として、天保12(1841)年に開設した日本最大規模の藩校です。水戸城三の丸の中に正庁をはじめ、文館・武館・医学館・寄宿寮等の他、調連場・矢場・砲術場等を設けました。明治戊辰の兵火と昭和20(1945)年の戦災で建物の多くは焼失し、現在は、四脚門の正門と土塀の中の正庁(正しくは『学校御門』:文武の試験や儀式を行う場所)・至善堂(藩主の休憩所、諸公子の勉学の場)・学生警鐘・要石碑が当時の建物等として残存するものの、神社・孔子廟・八卦堂等の大部分の建物は再建されたものです。幾度の戦火を免れた正庁、至善堂、正門 附 塀の建造

物は、国指定重要文化財として、昭和27(1952)年5月26日に指定されました。

江戸幕府最後(第15代)の将軍徳川慶喜は、幼少期に弘道館で学び、大政奉還後ここで謹慎生活を送りました。

(県指定史跡「水戸城の土塁と空堀」) 昭和42(1967)年11月24日 指定

水戸城は、水戸市三の丸にあった城で、徳川御三家の一つ水戸徳川家の居城で、水戸藩の政庁が置かれていました。

水戸城は、水戸市の中心部、水戸駅の北側に隣接する丘陵に築かれた連郭式平山城です。

城は、北部を流れる那珂川と南部に広がる千波湖を天然の堀としていました。

台地東端の下の丸(東二の丸)から西に向かって本丸、二の丸、三の丸が配され、それぞれが空堀で仕切られていました。

城郭は主に土塁と空堀で構成された戦国期東国の典型的な城で、水戸徳川家は、参勤交代を行わない江戸定府大名であったため、水戸城が藩主の居城として使われることは少なく、城内の建築物は質素でした。

(県指定史跡「水戸城の薬医門」) 昭和58(1983)年3月18日 指定

水戸城の薬医門は、銅板葺に変更されているものの現存しており、現在は旧本丸にある茨城県立水戸第一高等学校・附属中学校に移築されています。この門は佐竹氏時代の建物と言われており、現存する水戸城の建物では最古のものです。



水戸城最古の建造物「薬医門」

(国指定史跡「大串貝塚」)昭和45(1970)年5月11日 指定

大串貝塚は、水戸市塩崎町に所在する縄文時代前期の貝塚です。遺跡の平坦部分は削られ平坦化されていますが、斜面の貝層部分は残存しており、国指定史跡に指定され、「大串貝塚ふれあい公園」として整備されています。

大串貝塚は、太平洋に注ぐ那珂川下流右岸に位置します。那珂川の支流で、市域を東流して太平洋に注ぐ溜沼川は、縄文時代前期には河口から溜沼方面へ向かって入江状に広がる汽水湖と推測され、本貝塚は、その北岸標高25.6mの那珂台地の先端にあります。

* 汽水湖とは、海水と淡水が混在する湖を言います。大串貝塚の昭和18(1943)年の発掘調査では、ヤマトシジミ、マシジミ、ハマグリ、アサリ、カキ、アワビ、サザエなど、出土した貝類は淡水産と海水産が混在しています。例:サロマ湖や浜名湖など。

* ダイダラボッチ伝説 また、大串貝塚には、日本各地で伝承される巨人(ダイダラボッチ)伝承があります。ダイダラボッチは、山や湖などを作ったという伝承が多くあります。

奈良時代に作られた「常陸国風土記」には、ダイダラボッチが貝を食べて捨てた場所として、ここ大串貝塚が比定地(大櫛之丘)として記載され、重要な遺跡となっています。



水戸城の大手門(土塁と空堀に架かる橋)

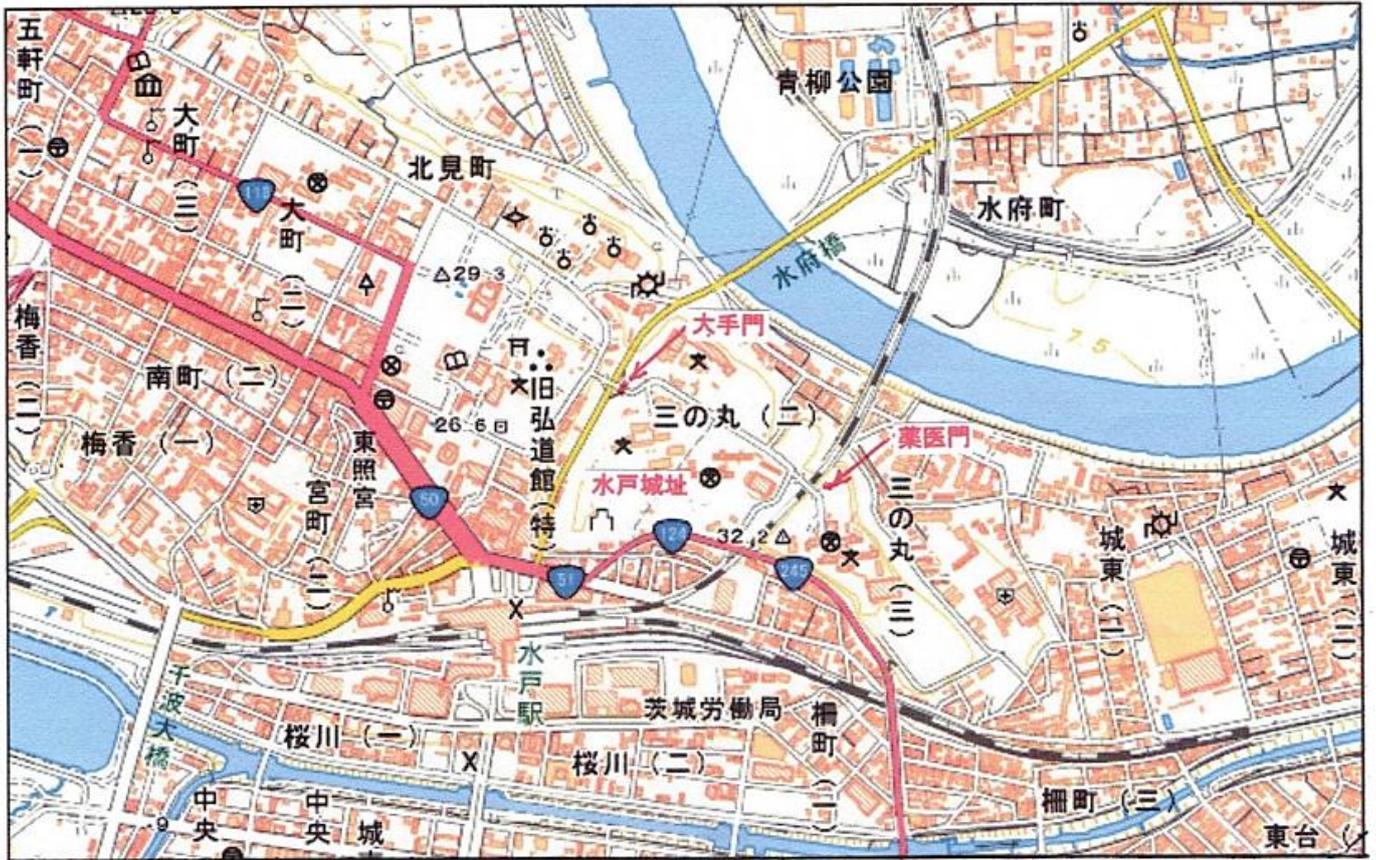


大串貝塚ふれあい公園 埋蔵文化財センター

地理院地図

GSI Maps

国指定特別史跡「旧弘道館」と水戸城「土塁と空堀」「薬医門」



地理院地図

GSI Maps

国指定史跡「大串貝塚」

